

新たな J R 東労組運動と固く連帯する J R 総連見解

J R 総連執行委員会は、2018 年 4 月 12 日に開催された J R 東労組第 35 回臨時大会で承認されたすべての決議事項を支持し、新たな J R 東労組運動と固く連帯することを明らかにする。

代議員の要請によって開催された J R 東労組第 35 回臨時大会は、「職場の声を尊重し、全組合員が納得と共感を持てる運動づくりで新たな J R 東労組を創りあげよう！」のスローガンのもと、労使の紛争を解消し、いかなる場合も、労使双方「信義誠実」を原則とする労使関係を切り拓いていくことを代議員の総意で確認した。

J R 総連に結集するすべての仲間たちは、J R 東労組との連帯を強化し、J R 総連の旗の下、J R 総連運動を更に推し進めていこうではないか。

血と汗と涙で創りあげた国鉄改革から 30 年が経過した矢先の大量脱退は、J R 東労組結成以来の最大の危機として現れた。それは 18 春闘での争議行為の戦術行使を巡る議論過程と、J R 東労組が会社との労働協約を逸脱し、「労使共同宣言の失効」という事態を招いたことに端を発している。

その本質は、「職場現実にあったたたかいを打ち出すべき」「準備不足」などの大会発言に示されているように、上意下達ともいえる組合員不在の運動と、社会情勢と組織実態・現実を分析することなく争議行為を通告し、労働協約を逸脱してしまったことであり、その指導責任に向き合うか否かの指導部の責任が問われたのである。

J R 東労組は、この痛苦な現実にしっかり向き合い職場からのたたかいを推し進めていかなければならない。それは、職場の組合員から謙虚に学び、組合員一人ひとりの要求・悩みを組織の意志として高めていく、当たり前の労働運動である。

今後、J R 東労組が歩み出す道は、国鉄改革の実現がそうであったように「茨の道」の連続である。しかし、いかなる困難があろうとも屈するわけにはいかない。それは、歯を食いしばってたたかっている仲間たちと、涙を流しながら脱退せざるを得なかった仲間たちのための「当たり前の労働組合」を取り戻す道だからである。

私たちには、先達が命をかけて J R 総連、J R 東労組を創りだしてきた英知と実践がある。今こそ、全組合員と共に切り拓いてきた国鉄改革の精神から学び、「抵抗とヒューマニズム」を基礎に、新たな J R 東労組運動を創りだしていこうではないか。

J R 総連は、二度と組合員に不安と動揺を与えないために、そして組合員と家族の利益と幸福を実現するために、鉄道 5 単組、5 連協、労連の仲間たちとの連帯と絆を更に深め、J R 総連の強化・拡大、発展を全組合員と共にかちとるものである。

2018 年 4 月 18 日
全日本鉄道労働組合総連合会
第 12 回執行委員会